

令和元年度 第7回沼田市市民構想会議の概要について

- 1 日 時 令和2年1月21日（火）午後2時から午後4時06分
- 2 場 所 沼田市役所 第2委員会室（テラス沼田5階）
- 3 出席者
 - （1）委員 林 勝男委員、小林郁夫委員、小林昭紀委員、生方秀二委員、岡嶋稜子委員、六本木勇治委員、小林 好委員、鈴木 誠委員、萩原忠和委員、坂井 隆委員、長沼裕子委員（11名）
 - （2）アドバイザー 篠田 暢之氏
 - （3）沼田市 五十嵐副市長、川方総務部長
（事務局：矢代企画課長、武井補佐兼企画係長）
- 4 配付資料
 - 次第
 - 第6回沼田市市民構想会議の概要について
 - 各検討テーマの主な意見
 - 「地域コミュニティの再構築と拠点づくり」への視点（アドバイザー提供資料）
 - 「美しい風景を守る」（アドバイザー提供資料）
 - 戦略1『地域コミュニティの創出』（小野里副会長提供資料）
 - 2020年事業「利根沼田まち映画」制作について（六本木委員提供資料）
- 5 概 要
 - （1）開会（事務局：企画課長）
 - （2）会長あいさつ（生方秀二会長）
 - （3）前回の会議結果について（事務局：企画課長）
 - 「第6回沼田市市民構想会議の概要について」により説明した。
 - （4）議題
 - 1)『地域コミュニティの再構築と拠点づくり』について
＜アドバイザー意見＞
 - 「地域コミュニティの再構築と拠点づくり」への視点
2020年の今年は、オリンピック・パラリンピックの国家行事とは別に、日本社会全体が大きく変化する出発年です。第5世代移動通信が始まり、これまでの地理的・経済的な格差の解消の可能性がこれにより進み、一方で、地方都市が果たす役割や、そこに住む存在理由がこうした技術革新に伴って急速に

変化します。従来通りの条件を基礎に話し合いをしていては、手遅れになりかねません。

日本の地方都市は30年後の2050年頃には人口が半減すると推計されており、半分の人口でこれまで通りにまちを従来通り維持することは殆ど不可能になります。人口減少によって、自治体の税収減が進み大都市に比べて社会保障や学校教育への投資が減少するため、今からどうするか議論が必要です。

北海道の夕張市は産業の衰退により、結果的に住民の社会的移動が誘発され急激な人口減少に陥り、行政機能も悪化した事実をご存知のことと思います。

お手元資料、2の「どこが・なぜ、変化したか」ですが、従来は保守的であっても、地域を守ろうという住民の方々のご努力によって、濃密な人間関係が基礎となり、地域は支えられていました。支え合って暮らす「コモンズ」(支え合い)によって、まちの歴史は形成されてきました。しかし現在の地方都市では、この支えあいのコモンズが衰退し、まちの歴史の維持が困難になりました。

これまでは仕事も人間関係も人的交流の範囲で保たれていましたが、従来の電話回線を基礎とする関係を超えて、電波が飛び、どんなビジネスでも必要に応じて仕事も人間関係も進める事が可能となりました。現在でも60%を超える第3次産業のサービスは、新しい情報通信技術に馴染みやすいため、生活やビジネスのやり方が一気に変化してしまい、インターネットによるモノの売り買いやその情報が簡単に出来る社会に変化しました。

従来は、対面による接客・販売の経済活動が主でしたが、今ではその必要性が薄れ、小規模なまちではタクシーやバスの運転手などの公共交通を担う人材が不足し、人口密度が下がった地域では、自治体も民間企業も、持続可能なサービスを提供することが困難になっています。

次に3の「では、どうしたら良いか？」になりますが、人口問題の専門家も指摘しているように、人口が5万人以上とそれ以下では、街の運営に大きな差が生じ、場合によっては困難な状況を生むという調査結果が明らかにされています。5万人を超す住民が暮らすまちでは、多くの住民の意見を集約する作業は困難を極めますが、5万人以下であれば、住民の意見集約が比較的スムーズに進められる可能性があり、粘り強く議論していけば、話し合いの結論は、落ち着きどころを得られやすいと考えられています。

人口規模が極端に小さい自治体でも、問題を解決することで所得増加を見事に果たした例があります。日本で一番貧しい村と言われた、人口が2,761人の猿払村(さるふつ・むら)です。猿払村はホタテの産地で、売れるときは売れますが、売れないときは、生モノのため廃棄し捨てていました。その現実、何とかならないかと思いを巡らせていた、猿払村の村長の英断でホタテの加工場を造ったところ、結果的には、全国で上位5位以内の高収入を得る地域に生まれ変わったのです。つまり、生産地の地の利を活かしつつ、加工まで手掛け

る「特化」、「棲み分け」を進めたのです。この村の例で分かるように特化する取り組みが成否を分けた事は明らかです。

次に、4の「人口減少がメリット（長所）になる？」ですが、この会議でも人口減少のデメリット（短所）についての議論が、しばしば指摘されてきたと思います。しかし人口減少によって困難に直面している地方都市でも、むしろ人口減少が進むことで、逆に豊かに暮らすことができるなど、見方を変えることで見えてくる別の可能性が見つかることがあり、失望する必要はないという結果も確認されるようになりました。

今年から始まる5Gと言われる通信技術の新しい展開は、私たちの生活を変えるだけではなく、地域の可能性を飛躍的に高めることになるとも言われています。空気や水と同じように情報を、どこでも、誰でも意識せずに利用することができるようになる、この技術革新は暮らしや経済を変え、その流れは加速していくとみられています。在宅で仕事をするのが当たり前になれば、地方から人が消えるのではなく、むしろ地方への移住が加速し、人口減少を回避できると専門家は見ているからです。そうであれば人口減少も可能性を広げられる側に視点を置いて考える方が、却って可能性を広げられるに違いありません。

経済・社会を覆う差し迫った短絡的・近視眼的な思考からひとまず離れて、この市民構想会議では、これまで述べたように沼田の30年・50年先を思い描く、長期の時間軸から考え直してみる、絶好の機会ではないかと想います。

○ 持続可能な「観光業」の手掛かり

インバウンドによる経済効果が政府の掛け声もあり、日本では評価されていますが、他方では「観光公害」という言葉が最近では衆目を集めるようになりました。多くの人が観光地を訪れることは大いに結構ですが、それと共に観光客の行儀（マナー）の問題が浮上しています。最近では観光を取り巻く環境変化が引き起こした、ゴミや騒音などによる「オーバー・ツーリズム」問題が、観光客を受け入れる観光地の住民の「生活の質」を低下させ、観光客にとっても「多すぎる観光客」の波の中を泳ぐ羽目になり、観光地の評価を落としかねない問題となっているからです。インバウンドの効果検証には複眼的な捉え方が必要で、むしろ将来展望を含めて、適正な受け入れを検討する工夫が望ましいと最近では理解されるようになりました。

特に、こうした議論が京都などで問題にされており、多すぎる観光客の影響で日常生活に支障をきたしている困った話題も多くあります。海外でも同様に、チェコの首都プラハは、世界中の観光客が集まる人口130万人の街ですが、ヨーロッパで「オーバー・ツーリズム」に悩んでいる代表都市としてプラハが話題にのぼっています。美しい街並みと文化的な香り高い歴史を積み上げてきた街ですが、ビール発祥の街のためビールが安く何種類も楽しめるため、観光客がビールを飲み過ぎて大騒ぎすることが問題視されています。「アルコトリッ

プ」という言葉があり、酔っ払い観光客から周辺住民が迷惑し、騒音に関係なさそうな地下鉄にさえ、22時以降は静かにするようポスターが貼られ観光客への警告を強化しています。

こうした現状に対して、ドイツの「観光公害」の対応策はバイエルン州経済省が昨年掲げた考え方が大変ユニークで、大学で観光業を研究する人たちの話題になり始めています。1つには、イベント観光の強化をせず、人間と自然とが調和した観光を目指す取り組みです。2つには、短期ではなく、地域の付加価値を高めて、滞在型の観光客を集めるようにした方が、周遊型の観光ができ地域経済にとっても有益である、ということです。森林文化都市を標榜し、豊かな自然環境と周辺の温泉地を持つ沼田市にとって、この考え方は広域・沼田市の観光振興には応用可能な考え方かと思います。

3つ目は、住んでいる地域住民のコミュニティを壊すような観光の受入はしないという決意です。本日のテーマである地域コミュニティの再構築という視点からは、このドイツ・システムと組み合わせて考えると、観光面から地域コミュニティを考え直す際の、良い視点を得られるのではないかと思います。

次に3の持続可能な「観光業」への転換ですが、ハンス・ホップフィンガー教授の調査結果では、最近のドイツでは観光地のレストランやバーの店舗数が減っていることが明らかにされました。多くの観光客がレストランやバーに押し寄せるため、地域の常連の人達が、コミュニティの間でもある馴染みのレストランやバーに近づけなくなってきたというのです。地域あつての観光客であるという、本来の形を取り戻さないと、観光客が来なくなった場合、観光産業に従事する人々にとっても、お店にとっても死活問題となるという訳です。

観光が地域にとって一方的プラスになるという考えに偏り過ぎると、地域のコミュニティが崩壊し、日常生活も壊されていく事が分かったのです。ホップフィンガー教授の調査結果による、こうした警告は、持続可能な「観光業」への転換を奨励する示唆として、傾聴に値する研究成果と言えそうです。

日本の少子高齢化、人口減少は確実に進みます。このままぼんやりとしていけば、日本は勿論、地域も確実に衰退していきます。その社会的激変をやわらげ、日本の社会的精神的な豊かさを維持するには、とにかく行動を起こすしかありません。つまり、この市民構想会議を核に広範囲な市民の方々のコミュニティの協力を得られれば、地域間競争に生き残ることは可能です。

いつの時代も必ず変化があり、「変化」があるところには、次の時代の可能性の芽吹きがあり、この芽吹きを育てていくことが大切なことなのです。

今、進行している日本社会の激変は若い世代にとっても飛躍できる機会です。そのためにも時代の変化を読み取り、従来の発想から抜け出す勇気と行動が必要です。今こそ、一人一人が『過去の延長線上に未来はない』と考えることが重要です。

○ 「美しい風景を守る」

郡上市白鳥町・石徹白（いとしろ）は僻村ですが、小水力発電所を運営し、その売電益で、荒れた農地を開墾し直したことで地域経済の好循環が始まり、1つの成功例と言えるような豊かな現実を生み出した事例になっています。

『発電所には全国各地から視察が相次ぐ。「小さな集落にとって、発電所は自信になった。でもゴールではなくスタート』』と資料としてお示しした関連記事がありますが、こうした事実から、その取り組みが広く伝えられ、他の地域でも、同様な取り組みが進められています。思い切って行動したことが、成功の元になった好例です。

<事務局>

○ 小野里副会長からの意見を「戦略1『地域コミュニティの創出』』により説明した。

<主な意見>

- 市民構想会議は今年で4期目になるが、3期目に「沼田いきいきプロジェクト」を提出したことがあった。地域の公民館等を活用してみんなが集まるような仕組みを作り、それをポイント化することで市として後押しするような形にするのはどうか、という内容のものだが、その資料があればここで共有したい。
- 地域のコミュニティを構築するのは、支え合いの風土が残っている地域の方が作りやすいと思う。沼田市でも新興住宅地が増える中、地域住民との関わり合いが希薄になり、コミュニティの構成が非常に難しくなっている。住む人が増えることは否定しないが、コミュニティの再構築に対するハードルは高くなっていると思う。
- 薄根地区に「やさいの杜」という直売所があるが、イートインスペースや勉強ができ、子どもが集まれる場所がある。そういった場所があると良いと思う。
- 個人情報保護が地域コミュニティの足を引っ張っていると思う。昔は地域の交流が盛んで名前や家族構成なども知っていたが、今では引っ越してきた人が何人家族なのかも分からない。個人情報保護の問題をどう解決していくのか考えた方が良い。
- 白沢町高平では引っ越してきた人も比較的馴染みやすく、地域のお祭りにも参加している。例えば新しく来た人にはまずお祭りの役員をしてもらい、地域に馴染んでもらうようにしている。このように各地区で工夫することで多少は改善されていくのではないかと。
- 小水力発電については沼田でも話があったようだが、具体的にどうなって

いるのか分からない。発電に利用できる場所は多くあるため、石徹白の例を参考に進めた方が良いのではないかな。

- 地域コミュニティの創出は非常に大切だと思う。今は“個人”が大切にされすぎて“集団”で行動し難いような状態になっているように感じている。場を作る仕組みとして、行政主導で場を創造し、人が集まるのかを考えることが大事だと思う。プラス思考で持続可能な政策を行うことで人は集まるのではないかな。公民館は各地域にあるため、そういった場所を利用して人が集まる場所を作ることが大事だと思う。それにより地域住人が生き生きすることで、それを見た若い人や市外の人にも魅力が伝わり移住促進にも繋がるのではないかな。そうすれば個人情報に関係なく、地域の交流が盛んになると思う。そのため個人情報保護が問題などと考えるよりも、もう少し視野を広げて打開策を考えていくべきではないかな。
- 利根町では花火大会やお祭りなどの行事を地域住民が協力し合って40年以上も続けてきた。助け合いの精神を持って協力し合うことでできることはたくさんあると思う。しかし、市内の人はあまり利根町に来ようと思わないので、まずは市内の人に来てもらって、利根町での取り組みを知って欲しい。
- 世代によって公共に関する捉え方が違うため、自治の問題点が浮上してくるのだと思う。石徹白の例のように自治に関わることでメリットになるような形をとることが必要だと考えている。持続可能性のある地域をつくる時には、自治の見直しと新しい視点の取り組みが必要だと思う。従来通りの考えではなく、新しい視点と組み合わせを進めていくのが良いのではないかな。
- 人口減少というと悲観的なことばかり考えてしまうが、篠田先生がおっしゃったように、利点についても考えた方が良く思う。また、外から来た人は口を揃えて野菜や果物が美味しいと言うので、もっと自信を持って政策を進めていけば良いと思っている。

<六本木委員から「利根沼田夢大学」に関する紹介>

○ 2020年事業「利根沼田まち映画」制作について

利根沼田の中高生を中心に活動している「利根沼田夢大学」で今年度映画監督とコラボして映画を制作するという話を進めている。その中に持続可能な開発目標を取り入れ、新しい繋がりを作り、最終的には世界に発信していきたいと考えている。市民構想会議の方々には、是非、制作に支援・協力をしていただきたい。

○ 『「夢大学」の初年度修了式』の新聞記事

昭和村、みなかみ町、沼田市と様々な地域の若者が募って新しいコミュニティを作り始めている。今後も地域の新しい絆、若い人の感覚に沿った新しいコミュニティを創出していきたいと考えている。

2) 『テラス沼田の具体的利活用の改善』について

<事務局>

- 前回配付資料「テラス沼田フロアガイド」により説明した。

<質問>

- 1階の「NUMATA DINER」と「福祉カフェippo」の営業はテナント料をいただいて営業しているものなのか。
- 「NUMATA DINER」についてはテナントとして賃料をいただいています。「福祉カフェippo」は市が設置している施設ですが、事業者へ委託して運営をしています。
- 台湾紅茶を「福祉カフェippo」においてもらいたいと考えているが、難しいのだろうか。
- 社会福祉課が所管していますが、現在は運営を委託しているため、そちらとご相談させていただいてからになると思います。
- 1階の空き店舗に関して、分譲して貸し出す予定はあるのか。また、賃料が高いと聞いているが、スーパーにこだわって探しているのか。
- 当初は本町通りにスーパーがないことから、スーパーを予定していましたが、事業者が撤退した後は特に条件等は定めておらず、分割の相談も可能ということですが、現状ではまだ決まっていない状況です。賃料は周囲よりも比較的安いと思っていますが、面積がある分採算の問題も出てきてしまうかと思えます。
- 今、有料で貸し出している場所は何か所なのか、また、その面積、賃料などできる範囲で教えてもらいたい。
- 1階には3か所テナント区画を用意しており、「NUMATA DINER」と「学習塾」については賃料をいただいています。2階には「FM OZE」の事務所とスタジオが有料となっています。3階から5階は市庁舎のスペースになっており、5階の一部が「ハローワーク沼田」の事務所スペースとして有料でお借りいただいています。6階北側には「沼田市社会福祉協議会」「ジョブカフェぐんま」「利根沼田障害者相談支援センター」が、7階については「沼田商工会議所」と「沼田ロータリークラブ」が有料となります。「ミズノウエルネス沼田」については、有料ではなく、市が設置してミズノグループに指定管理者として運営していただいています。
- 指定管理者というと、スポーツジムの施設は市で設置しているのか。
- 施設は市が造ったものですが、施設の維持管理とジム機器等による運動の提供については指定管理の中に含まれています。加えてミズノグループのノウハウを生かして、様々な運動プログラムを提供していただいています。

す。また、そのほかに市の事業として、勤労青少年ホーム機能として教室の提供や、健康課では健康教室等も行っています。

- 昨年クリスマス・マーケットというイベントでテラス沼田の1階を利用したが、とにかく電源がないため、イベントとして利用するのは厳しいと思う。また、1階は防災広場として造っているはずのため、災害があったときなどに電源がなくて大丈夫なのかという心配がある。ここを改善するのか、電気を使わないイベントや人の集まりを行うかのどちらかだと思う。
- 電気の容量はありますが、コンセントの数が少ないため、ブレーカーが落ちたという経過があります。また、防火シャッターの外にコンセントがあり、延長コードを使うと防火シャッターが閉まらないという問題もありますので、コンセントの数を増やすなど、解消に向けた検討をさせていただきます。
- 1階のスペースを使いたいと言えば、貸し出しはしてくれるのか。
- 1階に加えて、2階のコモンテラスと4階の会議室については一般利用が可能です。
- 4階の会議室を開放して、連日高校生が利用しているのは良いと思うが、高校生が増えすぎてうるさくなっている。そこに退職した教職員などにボランティアとして来てもらうような仕組みを作るのはどうか。
- 高校生の利用状況としては試験前がピークになっています。全ての把握はできませんが、真面目に取り組んでいる生徒が殆どです。他の人に迷惑がかかるようであれば、ある程度制限をしなければならぬと思いますが、現段階ではそこまでは至っていません。また、先生が来て勉強を教えるという形になりますと、会議室の使い方が変わってきてしまうため、それであれば空いている店舗を使い、学習塾として学習の場を提供するのが良いと思います。高校生だけではなく、一般の方が打ち合わせで利用するという場でもありますので、広く利用していただくスペースとして開放しております。

<主な意見>

- テラス沼田は既に活用されているので、市民が活用しやすい仕組みは市で作ってもらうとして、大切なのはその後のことだと思う。市民構想会議では人を集めた先にあるのは何なのか、集めた人をどのようにまちに流すのか、という議論が必要だと思う。

<アドバイザー講評>

テラス沼田はご存知のように、白紙で設計された市役所施設ではなく、リノベーションされた施設で、まちの再開発という視点からも、多様な市民の皆様

方のニーズに応えながら活用する施設という考えでスタートしたと伺っています。まことに時宜にかなった施設再生の見本と言えます。

市役所機能を中心に、市民生活に役立つ利便性高い複合施設として活用できる施設整備を、複眼的に「減築の手法」を用いて、進められた作業は新築物件よりも、問題解決には、多難な課題を乗り越え実現されたと感じます。

この施設に残されている課題は、市民の皆様方が施設の利活用のあり方についてその想いを、この建物に吹き込む取り組みに掛かってもいます。

テラス沼田が複合的な機能や目的をもってリノベーションされた意図には世代を超えた豊かな交流が可能となるように期待されていたからで、そのため、利活用には禁止条項を可能な限り抑え、多様な利活用に対応可能となるよう、知恵を出しあう事が重要です。

市民構想会議では、それぞれの組織の代表である選ばれた委員の皆さんが集まっておられ、多様な利活用の在り方を、前提を取り払って議論されるのが望ましいと思います。

テラス沼田は市民の財産です。ここに住んでいる方々が、施設利用を通して、豊かで、楽しい暮らしにつながる使命を期待され、進められてきたと思います。

3) その他

- 次回の協議事項については、4つの検討テーマの主な意見について確認いただき、提言に向けた協議をしていただくこととした。
- 「第2期沼田市まち・ひと・しごと創生総合戦略」の策定について、まとめ次第意見を伺う旨の説明をした。
- 次回の会議日程について、事務局から次のとおり調整したい旨を説明し、確認いただいた。

＜第8回＞ 日時：2月20日（木） 午後2時

(5) 閉会（事務局：企画課長）